

HP Operations Orchestration

Windows および Linux オペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 9.05.0001

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2012年6月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2012年6月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品 サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

リリースノート	1
目次	5
概要	7
新機能	8
日本語のサポート	8
OO ポータル	8
セキュリティ関連のアプリケーションイベントの監査	8
リポジトリをエクスポートする際のシステムアカウントパスワードのリセットの防止	8
サポートマトリクスの変更	9
信頼性の問題	9
Studio の使いやすさ	9
修正された不具合	9
データベースの変更	9
アプリケーションメモ	10
タイムゾーン	10
ブラウザ	10
SDK	11
Studio wswizard ツール	11
LnC インストーラー	11
既知の問題	12
Linux 6.2 にさざなみフォントがない	12
ユーザー定義グループを使用したゲート制御式トランジションが失われる	12
タイムゾーン	12
日本語バージョン	12
OO 9.05.0001 のインストール	14
サポートされる環境	14
ストレージ要件	14

インストールメモ	14
アップグレードおよびダウングレードメモ	15
Windows での OO 9.05.0001 のインストール	17
Linux または Solaris での OO 9.05.0001 のインストール	18
アップグレードおよびダウングレード ログ	20
upgrade.log ファイルの情報	20
uninstall.log ファイルの情報	23
HP OO 9.05.0001 のアンインストール	25
Windows での OO 9.05.0001 のアンインストール	25
Linux での OO 9.05.0001 のアンインストール	26
9.05 で修正された不具合	27
OO バージョン 9.00.01 ~ 9.04 に含まれる以前の不具合の修正	28
MySQL データベースの操作	29

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration(OO)の9.05.0001バージョンで行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

本リリースノートが想定する対象読者は、OOバージョン9.05.0001をインストールまたは配布しているお客様、HP Operations Orchestration(OO)システムエンジニア(SE)、およびカスタマーエンジニア(CE)です。

新機能

日本語のサポート

日本語対応の9.05.0001パッチは、以前の9.00.02パッチを置き換えるパッチです。これは累積リリースであり、9.00.02パッチ以降に追加されたすべての機能が含まれています。

- これまでに、新機能の日本語サポートを含まない他のパッチ (パッチ 9.04 や 9.05 など) をインストールしている場合、9.05.0001 をインストールすることで、新機能に日本語が適用されます。
- 前回行ったアップグレードが日本語対応の9.00.02パッチであった場合、9.05.0001 をインストールすることでシステムがアップグレードされ、9.00.02パッチ以降に追加された新機能が組み込まれるようになります。

OO ポータル

注: 次の項目はバージョン 9.05 で導入されました。

OO ポータルは、フローの実行とカスタマイズの手段を提供する新しいツールです。HP Operations Orchestration のフローに関連する自動化タスクが用意されています。OO ポータルでは、わかりやすいユーザーインターフェースから自動化タスクをカスタマイズでき、任意の外部 Web ページに自動化タスクをタスクレットとして埋め込む機能が用意されています。OO ポータルは Web ブラウザーまたはタブレットから開くことができます。

詳細については、OO ポータルで『OO Portal Deployment Guide』、『OO ポータルリリースノート』、OO ポータルオンラインヘルプを参照してください。これらのドキュメントは、<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals> からダウンロードすることもできます。

セキュリティ関連のアプリケーションイベントの監査

注: 次の項目はバージョン 9.05 で導入されました。

セキュリティ関連のアプリケーションイベントのログを `log4j.properties` ファイルに記録できるようになりました。例えば、認証/ログイン試行の失敗や、アクセス時のユーザー権限の不足などが対象となります。ログのエントリには、監査対象となったアクションを実行したユーザーと、アクションの影響を受けるユーザー、およびアクションの時刻が記録されます。これにより、セキュリティに関する脅威の発見が容易になります。

詳細については、『OO Administration Guide』(<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals> から入手可能)を参照してください。

リポジトリをエクスポートする際のシステムアカウントパスワードのリセットの防止

注: 次の項目はバージョン 9.05 で導入されました。

デフォルトでは、システムアカウントを含むリポジトリがエクスポートされると、パスワードが消去されます。この動作を無効にすることができるようになりました。このためには、`Central.properties` ファイルと `Studio.properties` ファイルに次の行を追加します。

```
dharm.repo.allow.system.accounts.travelling=true
```

サポートマトリクスの変更

注: 次の項目はバージョン 9.04 で導入されました。

OO でのサポート対象:

- Firefox 10.0
- ESXi5 での OO の実行
- Redhat Linux 6.2
- Terracotta 3.6.0

信頼性の問題

注: 次の項目はバージョン 9.03 で導入されました。

スケジューラーと Central サービスを統合することにより、スケジューラーの信頼性の問題が修正されました。

スケジューラーのログメッセージは、`Central_wrapper.log` ファイルに出力されます。トリガーログデータは、Central の `logs` フォルダ (Windows 環境では `%ICONCLUDE_HOME%/Central/logs/Scheduler/`、Linux 環境では `$ICONCLUDE_HOME/Central/logs/Scheduler/` に存在) にある特別なトリガーログに出力されます。

Studio の使いやすさ

Studio の使いやすさの改善

修正された不具合

このリリースでは、前のバージョンの不具合が修正されています。

データベースの変更

9.05.0001 パッチインストーラーは、`build_info` テーブルを現在のパッチバージョンとビルド日付で更新します。

アプリケーションメモ

タイムゾーン

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

- 外部アプリケーション URL (BSM) から OO Web ユーザーインターフェースを開くユーザー、または非基本認証ログインページ (LWSSO 構成) から OO にログインするユーザーは、URL にタイムゾーンパラメーターを追加する必要があります。

パラメーター `?x-VisitorTimeZoneOffset=180` を URL に追加します。ここで 180 は GMT +3 タイムゾーンを表します。

タイムゾーンパラメーターを含む URL の例を次に示します。

- `http://localhost:8080/PAS/app?x-VisitorTimeZoneOffset=180`

パラメーターは ? の後に追加されます。

- `http://localhost:8080/PAS/app?service=page/Scheduler&x-VisitorTimeZoneOffset=180`

外部リンクにタイムゾーンを追加するには、次の記述を追加します: `&x-VisitorTimeZoneOffset=180`

- コンピューターのタイムゾーンを変更した場合、変更を有効にするには、Central からログアウトしてからログインし直す必要があります。
- 日付と時刻の情報を正しく表示するには、クライアントとサーバーの時刻が GMT に同期している必要があります。
- 夏時間は、常にユーザーの現在のタイムゾーンで表示されます。ユーザーが現在夏時間にいる場合、スケジュールされた時刻は夏時間になりません(逆の場合も同様です)。

たとえば、次のようになります。今日が 2012 年 3 月 29 日で、フローが 2012 年 4 月 1 日 04:00 AM にスケジュールされているとします(2012 年 3 月 30 日 02:00 AM に夏時間が始まります)。スケジュールテーブルでこのフローに関して表示される時刻は、2012 年 4 月 1 日 03:00 AM です。2012 年 3 月 30 日 02:00 AM に、時刻は夏時間に移行します。それ以降、スケジュールに対して表示される時刻は 2012 年 4 月 1 日 04:00 AM になります。

- 1 つのクラスターの複数のノードに異なるタイムゾーンを設定することはできません。

ブラウザ

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

- バージョンのアップグレード後には、ブラウザのキャッシュをクリアする必要があります。
- Firefox 3.6.4 以上の場合、デフォルトのブラウザプロキシは **[システムのプロキシ設定を利用する]** に設定されています。

9.01 にアップグレードすると、ブラウザのプロキシ設定はデフォルトに変更され、既存の他の設定はオーバーライドされます。このプロキシ設定のために、Central の **[現在の実行]** ビューで接続の

問題が発生することがあります。このような問題が発生した場合、システム管理者に連絡して、必要なプロキシ設定を確認してください。

SDK

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

重要: 新しい API を使用するには、**WSCentralService.zip** をダウンロードする必要があります。**WSCentralService.zip** を展開し、JAVA 用の **WSCentralService.jar** と、.NET 用の **wscentr.dll** を置き換えます。

Studio wswizard ツール

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

入力がないオペレーションを実行することはできません。**wswizard** で生成された入力のないオペレーション(フロー)を使用するには、**trimNullComplexTypes** 入力を追加し、false に設定します。

LnC インストーラー

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

LnC は、<https://hpln.hp.com/node/4/otherfiles> からダウンロードできます。

『HP Live Network Connector User Guide』は、https://hpln.hp.com/system/files/hpln_inc_users_guide.pdf にあります。このドキュメントの「Configuring OO Stream」のセクションには、OO の構成方法に関する情報が記載されています。

既知の問題

Linux 6.2 にさざなみフォントがない

Linux 6.2 オペレーティングシステムには、さざなみフォントがありません。そのため、Central の一部の UI 項目が正しく表示されない可能性があります。

この問題が発生したら、さざなみフォントをダウンロードしてください。

1. さざなみフォントは <http://sourceforge.jp/projects/efont/> からダウンロードします。
2. Central がインストールされているマシンに次のディレクトリを作成します。`/user/share/fonts/japanese/TrueType`。
3. `tar.bz2` という名前のダウンロードファイルを展開し、`sazamai-gothic.ttf` と `sazanami-mincho.ttf` をディレクトリ `/user/share/fonts/japanese/TrueType/` にコピーします。
4. `bin/Central.sh restart` を使用して、Central プロセスを再起動します。

ユーザー定義グループを使用したゲート制御式トランジションが失われる

注: 次の問題は、バージョン 9.05 以降に当てはまります。

フローにゲート制御式トランジションがあり、必要なグループとしてユーザー定義グループが選択された場合、フローがデフォルトでないパブリックリポジトリにパブリッシュされると、ユーザー定義グループが両方のリポジトリに存在していても、ゲート制御式トランジションに関する情報が失われます。

これは、OO 9.x のリポジトリの設計に起因する制限です。リポジトリでは、各グループは UUID と呼ばれるランダムな一意のキーによって識別されます。両方のリポジトリに同じ名前のグループがあったとしても、UUID は異なっています。フローがパブリッシュされると、ターゲットリポジトリはゲート制御式トランジションをソースリポジトリで定義されたグループの UUID に割り当てようとし、この UUID がターゲットリポジトリに存在しないので、何も選択されません。

この問題に対する修正プログラム

は、<https://quixy.deu.hp.com/quixy/query/detail.php?ISSUEID=QCCR1D149165> で入手できます。

タイムゾーン

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

- LWSSO を使用して OO にログインすると、タイムゾーンはサーバーのタイムゾーンで表示されます。

日本語バージョン

注: 次の問題は、バージョン 9.03 以降に当てはまります。

アップグレードすると、日本語版のオンラインヘルプおよびガイドが英語版で上書きされます。

日本語ドキュメントを取得するには:

● **Central:**

- a. %ICONCLUDE_HOME%/Central/updates/9.05.0001/9.05.0001/backups フォルダーに移動します。

注: Windows 環境のホームの場所は %ICONCLUDE_HOME% です。Linux 環境では、\$ICONCLUDE_HOME\Central\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups フォルダーに移動します。

- b. central.zip ファイルを展開します。
- c. docs フォルダーをコピーし、新しい %ICONCLUDE_HOME%/Central/docs フォルダーに上書きします。

注: Linux 環境では、\$ICONCLUDE_HOME\Central\docs フォルダーに上書きします。

● **Studio:**

- a. %ICONCLUDE_HOME%/Studio/updates/9.05.0001/9.05.0001/backups フォルダーに移動します。

注: Linux 環境では、\$ICONCLUDE_HOME\Studio\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups フォルダーに移動します。

- b. studio.zip ファイルを展開します。
- c. docs フォルダーをコピーし、新しい %ICONCLUDE_HOME%/Studio/docs フォルダーに上書きします。

注: Linux 環境では、\$ICONCLUDE_HOME\Studio\docs フォルダーに上書きします。

OO 9.05.0001 のインストール

サポートされる環境

Operations Orchestration は、以下のオペレーティングシステム環境で動作します。

- Windows
- Linux および Solaris

注: 詳細については、『Operations Orchestration システム要件ガイド』を参照してください。

ストレージ要件

OO Central サーバー

HP OO Central サーバーには、10 GB のハードドライブ空き容量が必要です。これには、同時にインストールされるフローおよびオペレーション用の容量と、それらのローリングバックアップに必要な容量が含まれます。

注: 必要なディスク容量は、リポジトリのサイズによって異なります。アップグレード中にリポジトリがバックアップされるからです。

アップグレードインストールの詳細については、「[upgrade.log ファイルの情報](#)」(20ページ)を参照してください。

データベースと Central を同じマシンにインストールする場合は、データベースサーバーと Central サーバーの要件を合計する必要があります。

OO Studio サーバー

HP OO Studio サーバーには、5 GB のハードドライブ空き容量が必要です。

OO RAS サーバー

HP OO RAS サーバーには、5 GB のハードドライブ空き容量が必要です。

ストレージ要件の詳細については、『OO 9.05 システム要件』ドキュメントを参照してください。

インストールメモ

このリリースは累積リリースであり、過去にリリースされたすべての 9.0x のアップデートが含まれています。

アップグレードおよびダウングレードメモ

- 日本語対応の 9.05.0001 パッチは、以前の 9.00.02 パッチを置き換えるパッチです。これは累積リリースであり、9.00.02 パッチ以降に追加されたすべての機能が含まれています。
 - これまでに、新機能の日本語サポートを含まない他のパッチ (パッチ 9.04 や 9.05 など) をインストールしている場合、9.05.0001 をインストールすることで、新機能に日本語が適用されます。
 - 前回行ったアップグレードが日本語対応の 9.00.02 パッチであった場合、9.05.0001 をインストールすることでシステムがアップグレードされ、9.00.02 パッチ以降に追加された新機能が組み込まれるようになります。
- アップグレードは、9.05 までの任意の OO 9.x パッチに適用できます。
- バージョンをダウングレードする前に、ローカルとリモートのリポジトリを必ずバックアップしておいてください。自動的にバックアップされません。

インストール中には、次の場所にある HP OO 製品のそれぞれに対して、個別の zip バックアップが作成されます。

```
{HP_OO_Product}/updates/{version}/{version}/backups
```

例えば、Central は次のファイルにバックアップされます。

```
%ICONCLUDE_  
HOME%\Central\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups\central.zip、
```

また、Studio は次のファイルにバックアップされます。

```
%ICONCLUDE_  
HOME%\Studio\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups\studio.zip。
```

クラスター環境で Central をアップグレードする場合、一度に 1 ノードずつアップグレードを実行してください。すべてのノードを同時にアップグレードしないでください。

- コマンドウィンドウで、パッチアップグレードコマンドを管理者権限で実行します。

スタンドアロンの Load Balancer をインストールする場合、JAVA_HOME を設定する必要があります。

 - Windows: Java がインストールされていない場合、JRE 1.6_18 をインストールし、JAVA_HOME 環境変数を設定します。
 - Linux: JAVA_HOME 環境変数を設定します。
- インストールまたはアンインストールを実行すると、実行されたタスクを記述したログファイルが <アップグレードフォルダーの場所>/logs フォルダーの **upgrade.log** および **uninstall.log** に作成されます。

注: デフォルトでは、9.05.0001 パッチをインストールまたはアンインストールすると、ログファイルは {installer_location_folder}/logs に作成されます。インストールまたはアンインストールの際にログを別のフォルダーに記録するには、`-logDirectory` オプションを使用します。

例えば、Linux インストールの構文は次のようになります。`./install.sh -logDirectory /tmp/OO9.05.0001\ Upgrade/`

- 独自の証明書/キーストアを使用していて、9.05.0001 パッチを適用した場合、パッチインストーラーによって作成されたバックアップから証明書/キーストアを手動で復元する必要があります。独自の証明書/キーストアは、次の「**復元元**」のセクションのリストの場所にあり、「**復元先**」セクションのリストの対応する場所に復元する必要があります。

復元元:

- %ICONCLUDE_HOME%\Central\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups で zip を開き、central\conf の **rc_keystore** を探します。
- %ICONCLUDE_HOME%\Studio\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups で zip を開き、\studio\conf\rc_keystore の **rc_keystore** を探します。
- %ICONCLUDE_HOME%\RAS\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups で zip を開き、\RAS\java\default\webapp\conf の **ras_keystore.jks** を探します。
- %ICONCLUDE_HOME%\LB\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups で zip を開き、\clustering\apache\conf の **ras_keystore.key**、**ras_keystore.jks**、**ca.pem**、**ic.pem** を探します。

復元先:

- Central: %ICONCLUDE_HOME%\Central\conf\rc_keystore
- RAS: %ICONCLUDE_HOME%\RAS\java\default\webapp\conf\ras_keystore.jks
- LB: %ICONCLUDE_HOME%\Clustering\apache\conf\ras_keystore.key、ras_keystore.jks、ca.pem、ic.pem
- Studio: %ICONCLUDE_HOME%\Studio\conf\rc_keystore

Windows での OO 9.05.0001 のインストール

注: 9.x より前のバージョンがインストールされている場合は、9.x バージョンにアップグレードしてから 9.05.0001 をインストールする必要があります。

Windows バージョンの 9.05.0001 をインストールするには

1. **Studio** と **Central** を終了し、次の OO サービスを停止します。
 - RSCentral
 - RSJRAS
 - RSCLuster
 - RSGridserver(Load Balancer サービス)
 - RSScheduler(9.03 より前のバージョンからのアップグレードの場合)

注: スタンドアロンインストールの場合、必要な作業は、関連するサービスを停止してパッチを個別に適用することだけです。

注: スタンドアロンインストールで JRE 1.6 がインストールされていない場合は、java 1.6.0_X JDK をインストールし、JAVA_HOME を適切に設定します。

2. ファイル **hpoo_9.05.0001.zip** を一時フォルダーに展開します。
3. %ICONCLUDE_HOME% 変数が OO のホームディレクトリを指していることを確認します。
4. パッチを展開したフォルダーに移動し、**install_9_0x.bat** ファイルを実行します。
5. OO サービスを再起動します。

重要: 以前に 9.03 または 9.04 をインストールしておらず、9.05.0001 をインストールした場合、RSScheduler サービスが削除され、RSCentral サービスと統合されます。

重要: Central をクラスター構成でインストールしている場合、サービスを停止した後で、クラスター内のノードのすべての Central インストールに(一度に1ノードずつ)このリリースを適用してください。

重要: このアップグレードによる変更を有効にするには、ブラウザーのすべての履歴とキャッシュをクリアする必要があります。

以前のインストールのインストールファイルは、アップグレード中に上書きされるため、バックアップされません。

アップグレードが終了したら、**[Studio について]** および **[Central について]** ダイアログボックスで、パッチのバージョンを確認できます。このリリースでは、ダイアログボックスに表示されるバージョンは **9.05.0001** です。

Linux または Solaris での OO 9.05.0001 のインストール

注: 9.x より前のバージョンがインストールされている場合は、9.x バージョンにアップグレードしてから 9.05.0001 をインストールする必要があります。

Linux または Solaris システム上の OO インストールに Linux バージョンの OO 9.05.0001 をインストールするには

1. Central を終了し、次の OO サービスを停止します。
 - Central.sh
 - JRAS.sh
 - CLUSTER.sh
 - PASLB.sh
 - Scheduler.sh(9.03 より前のバージョンからのアップグレードの場合)

注: スタンドアロンインストールの場合、必要な作業は、関連するサービスを停止してパッチを個別に適用することだけです。

注: スタンドアロンインストールで JRE 1.6 がインストールされていない場合は、java 1.6.0_X JDK をインストールし、JAVA_HOME を適切に設定します。

2. ファイル **hpoo_9.05.0001.zip** を一時フォルダーに展開します。
3. **\$ICONCLUDE_HOME** 変数を OO のホームディレクトリに設定します。
4. **\$ICONCLUDE_CLUSTER_HOME** 変数を OO クラスターのホームディレクトリに設定します。
5. Solaris SA RAS の場合、**\$JAVA_HOME** 環境変数を JRE のホームディレクトリに設定します。
6. **install_9_0x.sh** ファイルを実行します。
7. スクリプトのエラーを確認します。
8. OO サービスを再起動します。

重要: 以前に 9.03 または 9.04 をインストールしておらず、9.05.0001 をインストールした場合、Scheduler.sh サービスが削除され、Central.sh サービスと統合されます。

重要: Central をクラスター構成でインストールしている場合、サービスを停止した後で、クラスター内のノードのすべての Central インストールに(一度に1ノードずつ)このリリースを適用してください。

重要: このアップグレードによる変更を有効にするには、ブラウザーのすべての履歴とキャッシュをクリアする必要があります。

以前のインストールのインストールファイルは、アップグレード中に上書きされるため、バックアップされません。

アップグレードが終了したら、**[Studio について]** および **[Central について]** ダイアログボックスで、パッチのバージョンを確認できます。このリリースでは、ダイアログボックスに表示されるバージョンは **9.05.0001** です。

アップグレードおよびダウングレードログ

HP OO ソフトウェアのインストールおよびアンインストールプロセス中は、画面上のコマンドウィンドウに進捗状況が表示され、同時にログファイルに情報が記録されます。

ログが記録される場所は、<アップグレードフォルダーの場所>/logs フォルダです。

- アップグレードログは upgrade.log ファイルに記録されます。
- ダウングレードログは uninstall.log ファイルに記録されます。

注: デフォルトでは、9.05.0001 パッチをインストールまたはアンインストールすると、ログファイルは {installer_location_folder}/logs フォルダに作成されます。インストールまたはアンインストールの際にログを別のフォルダに記録するには、-logDirectory オプションを使用します。

例えば、Linux インストールの構文は次のようになります。

```
./install.sh -logDirectory /tmp/009.05.0001\ Upgrade/
```

注: インストール中には、{HP_OO_Product}/updates/{version}/{version}/backups にある HP OO 製品のそれぞれに対して、個別の zip バックアップが作成されます。例えば、Central は次のファイルにバックアップされます。

```
%ICONCLUDE_
```

```
HOME%\Central\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups\central.zip、
```

また、Studio は次のファイルにバックアップされます。

```
%ICONCLUDE_
```

```
HOME%\Studio\updates\9.05.0001\9.05.0001\backups\studio.zip。
```

注: バージョンをダウングレードする前に、ローカルとリモートのリポジトリを必ずバックアップしておいてください。自動的にバックアップされません。

upgrade.log ファイルの情報

upgrade.log ファイルは、パッチのインストールディレクトリの logs サブディレクトリにあります。

次に示すのは、upgrade.log ファイルの内容の一部とその説明です。

注: 以下の情報は、ソフトウェアをアップグレードする際に画面にも表示されます。

- アップグレードバージョンの表示:

```
resolve.target.version:
```

```
[echo] Resolving target version...
```

```
[echo] Target version is 9.05.0001
```

```
[echo] Target minor version is 9.05.0001
```

- OO ホームディレクトリ:

```
resolve.target.home:
```

```
[echo] Resolving target home...
```

```
[echo] Target home is C:\Program Files\Hewlett-Packard\Operations Orchestration
```

```
[echo] Cluster home is C:\Program Files\Hewlett-Packard\Operations Orchestration\Clustering
```

- インストールされているコンポーネントの表示。次の例は Central と RAS のみの場合 :

```
resolve.central.source.version:
```

```
[echo] The source version of Central is 9.0.0
```

```
resolve.ras.source.version:
```

```
[echo] The source version of RAS is 9.0.0
```

```
resolve.studio.source.version:
```

```
resolve.cluster.source.version:
```

```
resolve.load.balancer.source.version:
```

- データベースバージョンの表示 :

```
resolve.database.version:
```

```
[echo] Resolving database version...
```

```
[sql] Executing commands
```

```
[sql] 1 of 1 SQL statements executed successfully
```

```
[delete] Deleting:C:\Program Files\Hewlett-Packard\hp...
```

```
[echo] Database version is 9.00
```

- バックアップの場所 :

```
studio-backup:
```

```
central-backup:
```

```
[echo] Backing up Central files
```

```
[mkdir] Created dir:C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

```
[zip] Building zip:C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

```
[touch] Creating C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

- 一般アップグレード :

```
upgrade.platform.components:
```

```
[echo] *****
```

```
update.central:
```

```
[echo] Applying new Central files
```

```
[copy] Copying 4014 files to C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

```
[copy] Copying 249 files to C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

```
[copy] Copying 60 files to C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

- データベースのアップグレードパス:

```
build.upgrade.database.version.flow:
```

```
[build-version-flow] Available versions:[9.02, 9.03, 9.04, 9.05, 9.05.0001]
```

```
[build-version-flow] Source version:9.00
```

```
[build-version-flow] Upgrade versions: 9.02, 9.03, 9.04, 9.05, 9.05.0001
```

- 各バージョンを個別にアップグレード(累積的):

```
run.single.database.upgrade:
```

```
[echo] Upgrade to 9.02
```

```
run.single.database.upgrade:
```

```
[echo] Upgrade to 9.03
```

```
run.single.database.upgrade:
```

```
[echo] Upgrade to 9.04
```

```
run.single.database.upgrade:
```

```
[echo] Upgrade to 9.05
```

```
run.single.database.upgrade:
```

```
[echo] Upgrade to 9.05.0001
```

- 特定のコンポーネントのアップグレードパス(Central):

```
build.upgrade.source.version.flow.central:
```

```
[build-version-flow] Available versions:[9.02, 9.03, 9.04, 9.05, 9.05.0001]
```

```
[build-version-flow] Source version:9.0.0
```

```
[build-version-flow] Upgrade versions: 9.02, 9.03, 9.04, 9.05, 9.05.0001
```

- アップグレードがエラーなしで正常に終了した場合:

```
BUILD SUCCESSFUL
```

```
Total time:3 minutes 52 seconds
```

```
Log file upgrade.log was created in "C:\Program Files\Hewlett-Packard\hpoo_9.05.0001\Upgrade_9.05.0001\logs"
```

uninstall.log ファイルの情報

次に示すのは、uninstall.log ファイルの内容の一部とその説明です。

注: 以下の情報は、ソフトウェアをアンインストールする際に画面にも表示されます。

- OO ホームディレクトリ:

```
resolve.target.home:  
    [echo] Resolving target home...  
    [echo] Target home is C:\Program Files\Hewlett-Packard\Operations Orchestration  
    [echo] Cluster home is C:\Program Files\Hewlett-Packard\Operations Orchestration\Clustering
```

- データベースからダウングレードするバージョンの表示:

```
build.uninstall.version.flow:  
[build-uninstall-version-flow] Get database uninstall versions  
[build-uninstall-version-flow] Uninstall versions: 9.05.0001, 9.05,  
9.04, 9.03, 9.02
```

- 各バージョンを個別にダウングレード:

```
run.single.database.downgrade:  
    [echo] Downgrade database for version 9.05.0001  
run.single.database.downgrade:  
    [echo] Downgrade database for version 9.05  
run.single.database.downgrade:  
    [echo] Downgrade database for version 9.04  
run.single.database.downgrade:  
    [echo] Downgrade database for version 9.03  
run.single.database.downgrade:  
    [echo] Downgrade database for version 9.02
```

- コンポーネントの復元:

```
restore-central:  
    [echo] Backing up log files  
    [move] Moving 8 files to C:\Program Files\Hewlett-Packard\...  
    [echo] Deleting Central files  
    [echo] Restoring previous Central files
```

```
[unzip] Expanding:C:\Program Files\Hewlett-Packard\...
```

```
[echo] Deleting Central backup files
```

- ダウングレードがエラーなしで正常に終了した場合:

```
BUILD SUCCESSFUL
```

```
Total time:1 minute 9 seconds
```

```
Log file uninstall.log was created in "C:\Program Files\Hewlett-Packard\hpoo_9.05.0001\Upgrade_9.05.0001\logs"
```

HP OO 9.05.0001 のアンインストール

Windows での OO 9.05.0001 のアンインストール

注: バージョンをダウングレードする前に、ローカルとリモートのリポジトリを必ずバックアップしておいてください。自動的にバックアップされません。

Windows バージョンの 9.05.0001 をアンインストールするには

1. Studio と Central を終了し、次の OO サービスを停止します。
 - RSCentral
 - RSJRAS
 - RSCLuster
 - RSGridserver

注: スタンドアロンインストールの場合、必要な作業は、関連するサービスを停止してパッチを個別にアンインストールすることだけです。

2. ファイル **hpoo_9.05.001.zip** を一時フォルダーに展開します。
3. `%ICONCLUDE_HOME%` 変数が OO のホームディレクトリを指していることを確認します。
4. パッチを展開したフォルダーに移動し、**uninstall_9_0x.bat** ファイルを実行します。
5. OO サービスを再起動します。

重要: 9.03 または 9.04 をインストールしていなかった場合、この手順を実行すると、RSScheduler サービスがバージョンに再び追加されます。9.03 または 9.04 にダウングレードした場合、スケジューラーサービスは復元されません。

重要: Central をクラスター構成でインストールしている場合、サービスを停止した後で、クラスター内のノードのすべての Central インストールから(一度に1ノードずつ)このリリースをアンインストールしてください。

重要: このダウングレードによる変更を有効にするには、ブラウザのすべての履歴とキャッシュをクリアする必要があります。

Linux での OO 9.05.0001 のアンインストール

注: バージョンをダウングレードする前に、ローカルとリモートのリポジトリを必ずバックアップしておいてください。自動的にバックアップされません。

Linux または Solaris システムで Linux バージョンの OO 9.05.0001 をアンインストールするには

1. Studio と Central を終了し、次の OO サービスを停止します。
 - Central.sh
 - JRAS.sh
 - CLUSTER.sh
 - PASLAB.sh

注: スタンドアロンインストールの場合、必要な作業は、関連するサービスを停止してパッチを個別にアンインストールすることだけです。

2. ファイル `hpoo_9.05.0001.zip` を一時フォルダーに展開します。
3. `$ICONCLUDE_HOME` 変数を OO のホームディレクトリに設定します。
4. `$ICONCLUDE_CLUSTER_HOME` 変数を OO クラスターのホームディレクトリに設定します。
5. Solaris SA RAS の場合、`$JAVA_HOME` 環境変数を JRE のホームディレクトリに設定します。
6. `uninstall_9_0x.sh` ファイルを実行します。
7. スクリプトのエラーを確認します。
8. OO サービスを再起動します。

重要: 9.03 または 9.04 をインストールしていなかった場合、この手順を実行すると、Scheduler.sh サービスがバージョンに再び追加されます。9.03 または 9.04 にダウングレードした場合、スケジューラーサービスは復元されません。

重要: Central をクラスター構成でインストールしている場合、サービスを停止した後で、クラスター内のノードのすべての Central インストールからこのリリースをアンインストールしてください。

重要: このダウングレードによる変更を有効にするには、ブラウザーのすべての履歴とキャッシュをクリアする必要があります。

9.05で修正された不具合

修正された不具合の参照番号は、QCCR(Quality Center Change Request)番号です。

修正された不具合の詳細については、HP Software Support Onlineを参照するか、HPサポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D146458	修正済みの問題	
QCCR1D149165	RAS コマンドの実行が次の例外によって失敗する場合があります: org.xml.sax.SAXParseException:Premature end of file	
QCCR1D144651	例外 java.lang.NullPointerException がサブフローのハンドオフ実行時に発生する	このエラーはハンドオフ後に発生しません。エラーが発生するのは、システムアカウントを使用するこのステップだけです。ハンドオフしない場合は、エラーは発生しません。
QCCR1D120375	セキュリティ関連のイベントに関するログの追加	スケーラブルなロギングシステム内で、セキュリティ関連のアプリケーションイベントをアプリケーションレベルでログに記録する必要があります。
QCCR1D148701	『High Availability Guide』に記されている OO ログファイルのパスが正しくない	記述されている central_wrapper.log のパスがLinux環境に関して正しくありません。

OO バージョン 9.00.01 ~ 9.04 に含まれる以前の不具合の修正

OO バージョン 9.00.01 ~ 9.04 で修正された不具合の詳細については、HP ソフトウェアサポートオンライン(<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>)で関連するリリースノートをダウンロードしてください。

MySQL データベースの操作

注: この手順は 1 回だけ実行してください。

1. ファイル **hpoo_9.05.0001.zip** を一時フォルダーに展開します。
2. **sp_reset_run_id.sql** ファイル内のクエリを実行して、ストアプロシージャをデータベースに追加します。
3. OO データベースのスキーマ名を使用するように **init.sql** ファイルを変更します(**dharm**a を置き換えます)。
4. **init.sql** ファイルを MySQL のインストールディレクトリ(例、"C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 5.1") にコピーします。
5. **MySQLINSTALLDIR\my.ini** に **init-file** オプションを追加します。例えば、**C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 5.1\my.ini** を変更して、次の行を追加します: "**init-file=C:\Program Files\MySQL\MySQL Server 5.1\init.sql**".
6. MySQL サーバーを再起動します。
7. **init-file** オプションの詳細については、以下を参照してください。

<http://dev.mysql.com/doc/refman/5.0/en/option-files.html>

<http://dev.mysql.com/doc/refman/5.1/en/server-options.html#option%5Fmysqld%5Finit-file>

注: データベースが完全に起動してから、OO での作業を開始します。

